水絵の具

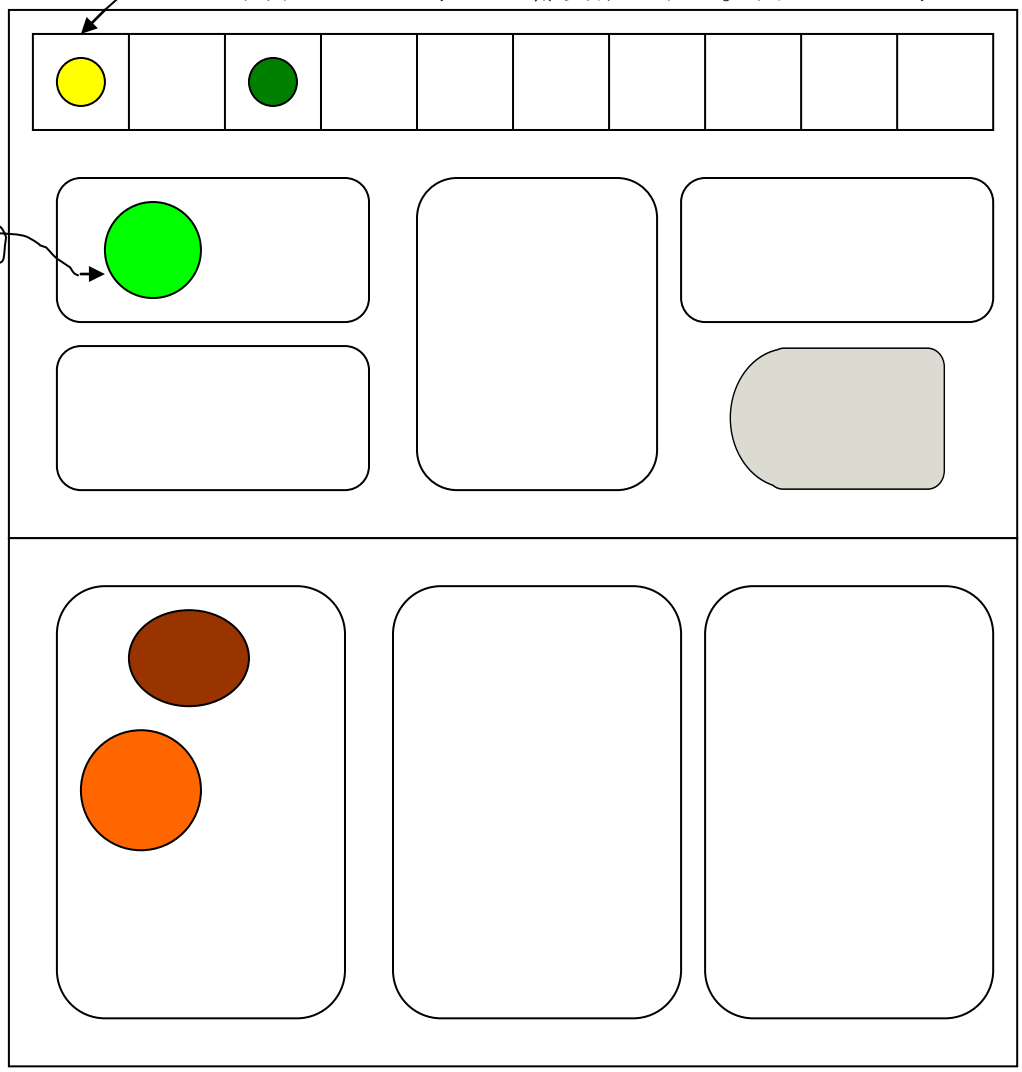
用具の使い方

＜パレットの使い方＞

絵の具の**部屋・倉庫**など

・ 決まったところに決まった色を出す。

・ 出す色や量は、その都度指示する。例　小豆大、大豆大



絵の具の**ひろば・工場**など

★ 絵の具の部屋で**色混ぜをしない**ように、色をとるときは、必ず**よく洗って水をきった**筆で。

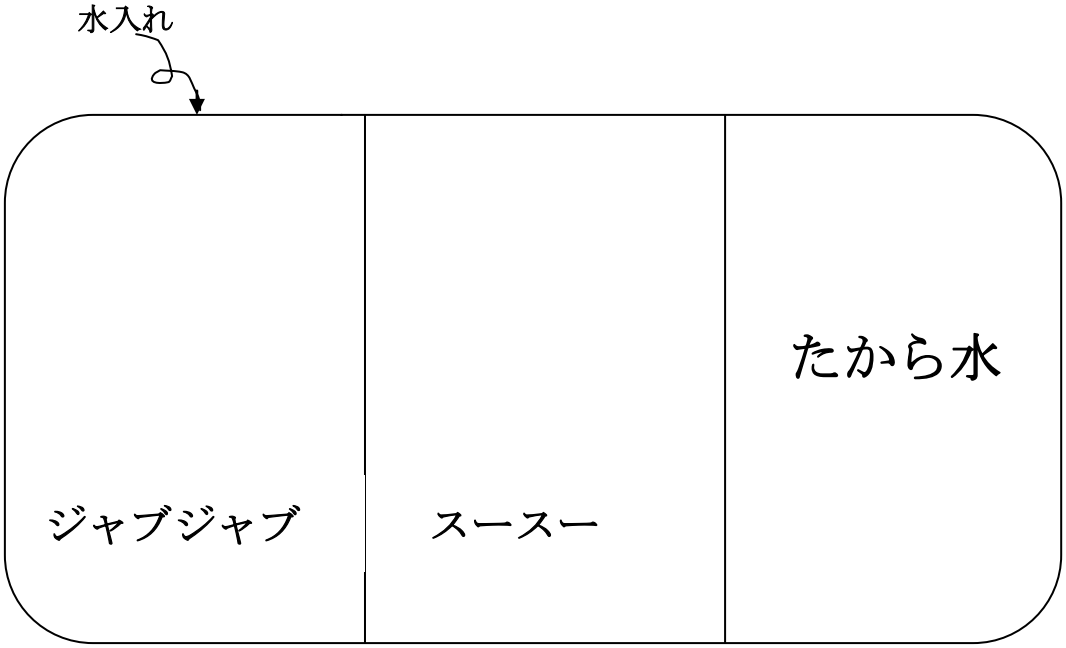
★絵の具のひろばでは、十円玉大で色づくりを⟶ 図工の時間にパレットを**洗わないで**すむように。

★パレットで水溜りをつくらない。

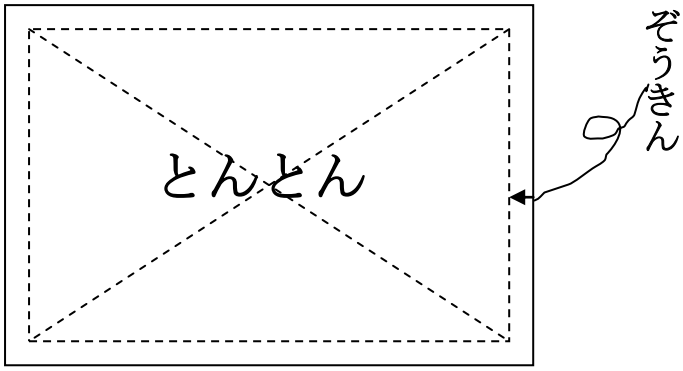
★ パレットは、机におかないで手に。（画用紙の上に置かない。）

＜水入れの使い方と筆の洗い方＞

★　下記の使い方をすることによって、時間中に水をかえない。



★絵の具のついた筆は、一番目の水でジャブジャブとしっかり洗い、二番目で、スースーと二度洗いをし、次に雑巾でとんとんと筆の水をしっかり落とす。

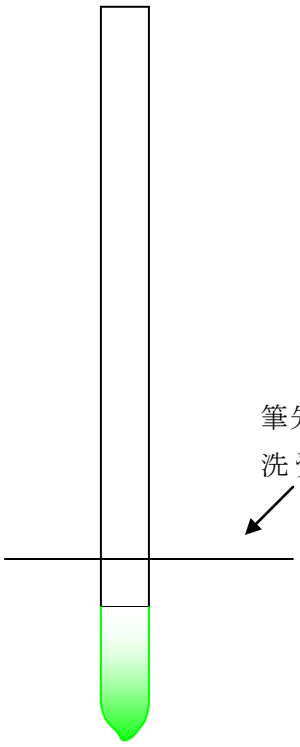


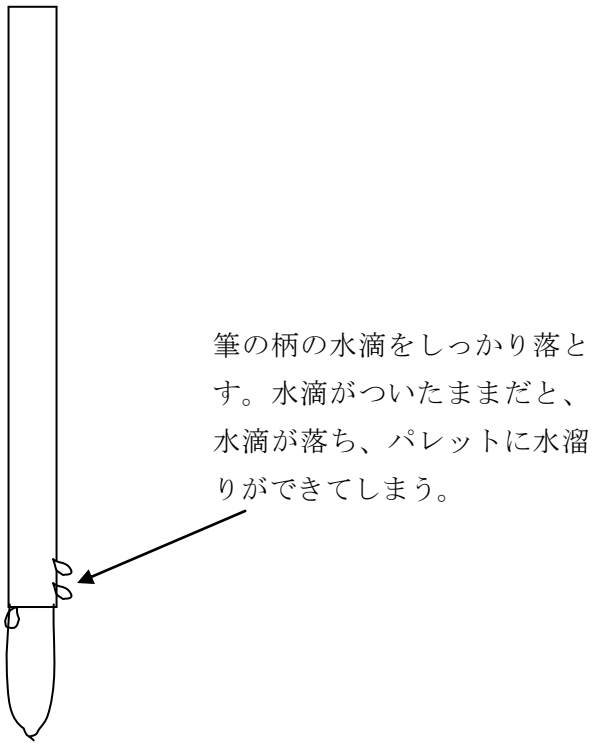
★絵の具用の雑巾は、必ず用意させる。

★筆の水のとり方が不十分なため、パレットや画用紙の上で水溜りを作ってしまう子が以外に多い。

★たから水は、絵の具のかたさを調節するために使うので、絶対に濁らさない。

そのためには、洗った筆を使うこと





水の量は、経験しながら身につけていくものですが、指導するときの言葉の表現の仕方で、理解し易いこともあるようです。

例、**ねちねち**（水が少ない）**しゃぶしゃぶ**（水が多い）**なめらか**（適量）

用具の使い方の基本を守って、きれいな色作り

基本の技法

★デカルコマニー（水なし）

＊直接チューブから、色を画用紙に落とす。
＊真ん中で画用紙を折ってできあがり。
＊何に見えるか見立てて切り取って貼ったり、描き加えたりすると楽しい。

★にじみ（水をたっぷり使って）

＊先に画用紙に水をおいて、その上に絵の具をおいていく。

★　ぼかし

＊絵の具を先におき、次に筆に水だけをつけて、絵の具の上をなぞり、少しずつぼかす。

★吹いて（直接口で、または、ストローでも）

＊絵の具をパレットの広場で、多めの水で溶く。
＊画用紙に絵の具をたらし、ふきちらす。

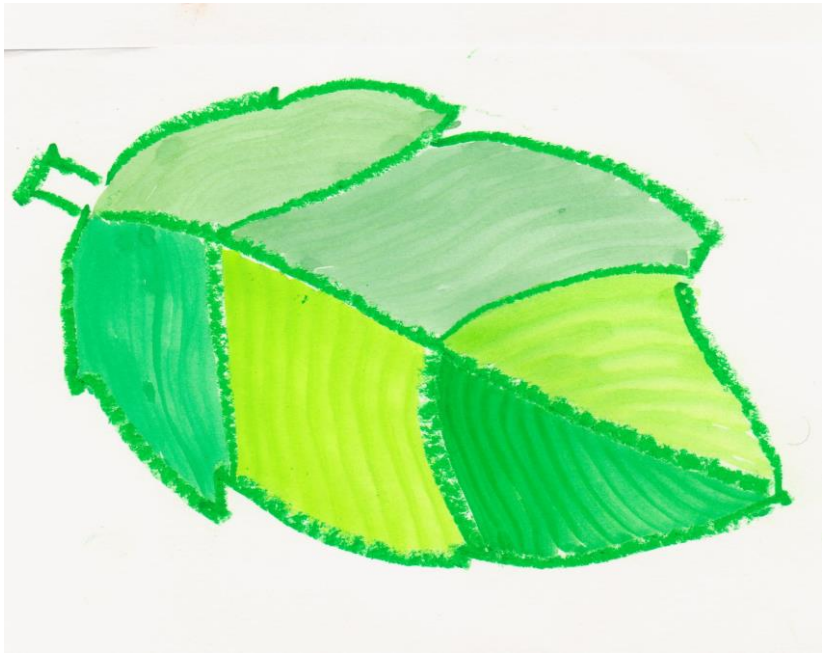
★筆をふって

＊絵の具の水の量は、多めに。
＊筆を振って画用紙に色をおく。
＊顔や服にいっぱいとぶので、汚れても良い服で。
＊プールの前にすると顔や手についても安心。

★濃淡（水を少しずつ増やして）

＊一色に水を少しずつ増やして描いていくとだんだん薄くなる。（図は、線ぬり）

★線ぬり



＊前の線に少し重ねて描く。

★点ぬり

＊筆の先で、色をおいていく。

★混色（三原色）

＊赤、青、黄の三原色だけで色作り。
＊真ん中の円のいろは、三原色から、
　一色選ぶ。
＊選んだ色に他の色を混ぜていく。
＊赤に青、赤に黄、黄に青。

★重ねぬり

＊薄い色から重ねていく。
＊図の場合一番最初は、黄色
　をおいている。